

地域づくり考房『ゆめ』は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に生かしていくことを目指しています。

“ゆめ”の由来…結芽「ニースの芽を結ぶ場所」+ 夢 + 遊眼「遊び心の視点を持つ眼」



松本大学

2008.4.7 新入生向け
考房『ゆめ』説明会「ゆめカフェ」



地域づくり考房『ゆめ』に対する期待

松本大学学長代行 住吉 廣行

理工系の大学では、自分たちの日頃の科学的な学びの成果を生かし、何か新しいアイデアや若者の感性を發揮できるような、形になるものに挑戦しようとして、例えばロボットづくり等に取り組み、全国でのコンテストにも出場しています。自己実現という意味では、面白い取組だと思えます。ロボット創りは、技術のみならずチームワークも必要ですから。

それでは、総合経営学部や短期大学部のような文化系の大学では、ロボットづくりに対応するものとしてどんなことが考えられるのか？そこで出て来たのが“地域づくり”だったと思います。つまり地域づくりは、日頃の社会科学的な学びの成果を生かし、地域という具体的なフィールドを相手にして、多くの方々の意思や望みを紡いで、そして自らの夢を形に変えて欲しいと思っています。仲間を集め、地域の方々と話し合い、何が求められているのか、どうすれば実現できるのか、失敗すればどう改善するのか、内容は豊富です。机に向かっているだけでは決して獲得できない、貴重な学びになるはずです。

地域にある芽を結って、そして遊びの眼を大きく開いて、夢に向かって、松本大学に集う多くの若者が大きくはばたいて欲しいものです。

Topics

プロジェクト紹介

国際交流活動紹介

・松本大学ナーマル・プロジェクト
・ハンゲル講座

子どもとの交流活動紹介

・山形村チャレンジ広場
・昔あそびの日

ファシリテーション実践講座

まちの縁側づくり実践塾
田川地区編

楽しい縁側づくり活動紹介

・みすず屋うどんパーティー
・上高地線ふるさと鉄道祭り 他

ハニフ見学ツアー

学生チャレンジ奨励制度募集
つばやき

学生主体のプロジェクト紹介

《現在進行中のプロジェクト》

地域交流和太鼓プロジェクト
「松風連」

松本大学
キッズスポーツスクール

お店で楽しい縁側づくり

古い電車で新しい語らいの会

ベロタクシー

Peace of mind

松本大学
ナーマル・プロジェクト

山形小学校
特別支援学級サポート

NEW

松本大学キッズスポーツスクール

子どもの発育・
発達に合わせた
様々なスポーツ
を通して子ども
に体を動かす楽
しさを知ってもら
います。



NEW

山形小学校特別 支援学級サポート



障がいを持つ子どもたちと買
い物に行ったり、さつまいも
を植えたり、授業支援をする
活動です。他学校の特別支援
学級の子供たちとも親睦を深
め、人間関係を広げながら、
生活経験を豊かにして社会性
を養っていきます。

松風連 子ども 和太鼓体験教室

特別支援
学級とは？

小学校、中学校、高等学校および中等教育学校に、教育上特別な支援を必要とする児童および生徒のために置かれた学級のことです。

松風連は3・4月に全4回の子ども和太鼓教室を練習会場の梓川農村環境改善センターで開きました。今まで以上に地域交流を積極的に進めていこうと初めての試みで行いました。



参加したのは全員梓川小学校の生徒1年生から6年生までの男女12名で、和太鼓に触れたことがない子ばかりでした。和太鼓教室というのは私たちにとって初の試みでしたが、最終的に曲を1つ覚えて保護者の方々に披露することができました。最初のうちは子どもたちが緊張してメンバーとのコミュニケーションも少なかったのが、練習を重ねるにつれて徐々に打ち解けていき、地域の子どもたちと身近に会話することができて、私にとっても楽しい活動となりました。

教室終了後もメンバーとして活動に参加する小学生が2人いました。夏の演奏に向けてたくさん練習して、いろいろな体験をしてもらいたいと思います。

(総合経営学部総合経営学科3年 浜 翔太郎さん)

ぼくは太こをお祭りでしかたたいたことがありませんでした。太この大きさによって音のひびき方や高さ、低さがちがいおもしろく思いました。「たたく」というだけなのに、いろいろな表現ができ、曲ができてしまい、すごい楽器だと思いました。姿勢もしっかりしないとちゃんとたたけないので、ちょっとつらかったです。毎日、口だいこでリズムをおぼえて、実際にたたくと少しずつ上手にたたけるようになりました。

今度、松風連に参加させてもらおうと思っていますが、大学生の人たちみたいにたたけたら気持ちよさそうなので、がんばりたいです。

(梓川小学校6年
浅治 勇太くん)

★ 国際交流活動紹介 ★

松本大学 ナーマル・ プロジェクト



私たちナーマルプロジェクトは、メンバー3人で昨年の12月22日から29日にかけてスリランカへ調査に行ってきました。

今回のスリランカ訪問の目的は、実際にこの目で現状を見てくること、チャリティーショーで集まったお金の一部をボランティアで学校の先生をしている女性たちに届けることでした。

ナーマル・オヤには電気・水道・ガスなどのライフラインは無く、学校や校長先生の家もその例外ではありません。私たち日本人の感覚からしたら、“ありえない”この一言に尽きます。学校は立派な校舎があるわけではなく、勉強することの出来る最低限の環境といった感じでした。

今回のことで、自分の中でナーマル・オヤのイメージがより明確なものとなりました。本格的にスタートを切った私たちですが、これからは現地小学校の先生たちの支援・たわしプロジェクト・ベリープロジェクトに、より力をいれていきたいと思えます。（総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年 若旅 俊介さん）

現地リーダーより

スリランカの首都から遠く離れているナーマル・オヤ地域。政府からもあまり関心を持ってもらっていないその地域の開発に、松本大学で関心を寄せていただいていることに心から「ありがとう」と言います。私はスリランカで、学校へ通うことのできない子ども達の学習支援や、農業振興の活動を行っています。また、現地の情報を集めて松本大学へ紹介したり、逆に松本大学の活動を現地の方へ紹介したりと、日本とスリランカの橋渡しをしています。今は病気がちで大きなことはできないけれど、できることで頑張っています。大学の皆さんもこれからもこの地域の人々のために、お手伝いいただけたらうれしいです。国際交流に関心を持っている方、人々を助けたいと思う方、ぜひこれからも私たちと一緒にナーマル地域の力になってください。私はスリランカの地で皆さんの暖かい気持ちと、皆さんがスリランカに来ることをお待ちしております。

（スリランカ アマラ ラナシengeさん）



チャリティーショーでの収益金は143,000円でした。たくさんの方々のご協力ありがとうございました！

ハングル講座

地域の方より

10回という少ない回数の中で、韓国語をマスターするということは非常に難しいことでしたが、参加者のなかでも特に宿泊施設関係者は積極的に質問をされ、現状に照らし合わせた講義であり有意義だったと言えます。しかしながら、最初の目的である山岳ガイド（つまり案内する側）の出席が少なかったことに関しては残念とも言えます。他文化の方たちをガイドするということは、言語が不可欠であり、もっと積極的に参加し言葉を操れることよりも、雰囲気や学ぶことに重点をおいても良かったかとも思います。今後も他国からの観光を含めた登山等の依頼は増加していく傾向にあると思いますが、このような催しが再度あってほしいと願います。

（信州まつもと山岳ガイド協会やまたみ 石塚 聡実さん）



考房『ゆめ』の勧めで出会った山小屋のガイドさんたちと始めたハングル講座は、私が思ったより順調に進みませんでした。普通のハングル講座では、最初は母音と子音の関係をよく把握した上で発音を練習しますが、この講座はちょっと違いました。山登りに来る韓国人のお客さんと話すために山でよく使うハングルを学びたいと言われ、私たちはどのような方法で教えればいいのか迷いました。本屋さんで資料を探してみましたが、見つからず困りました。先生から参考資料を借りて、初めてハングルを教えることになりました。皆さんがあきらめずに頑張っているところを見て、私ももっと精一杯教えようと頑張りました。ちょっと話せるようになった皆さんを見て嬉しく思いました。また、まだカタカナが苦手だった私がこの講座の間にカタカナを早く読めるようになりました。短い時間でしたが、いい経験になりました。また、このようなことがありましたら、参加したいと思えます。いい思い出になりました。

（総合経営学部総合経営学科2年 チャン ユヨンさん）

山形村 チャレンジ広場



地域の方より

山形村子ども会育成会の基本方針は、「子どもから選ばれる村づくり」に貢献する」「村中みんなで子育て」に向けてのネットワークづくりです。一方松本大学は、「幸せな地域社会づくりへの貢献」を志とし、「幸せづくりの人」づくりを教育目標にしていると聞きます。

そもそも、子ども会育成会が松本大学との交流を望んだのは、松本大学が地域に根ざした大学であり、山形村の「みんなで子育て」の「みんな」の中に大学生が加わり、子ども達とふれ合っただけの新鮮さに大きな期待があったからです。今思えば、「村づくりに貢献」「地域社会づくりへの貢献」というように、期せずして双方の目標が一致していることから考えると、一つの「縁」があったように思います。

育成会主催の「チャレンジ広場」や「みんなの集い」、そして学生が企画した「ツリーハウス餅つき大会」に7人の松本大学生に参加していただきました。このことは、山形村子ども会育成会と松本大学の「縁」が現実のものになったということです。今年も、昨年に引き続き松本大学から一人でも多くの参加者をいただき、双方の「縁」がより大きく・深くなることを願っています。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科4年 鳥山 亮介さん)

私は「山形村プレイパーク作り」企画に参加しました。山形村には子供と大人と一緒にあってつくったツリーハウスがあります。ツリーハウスの周りでみんなが楽しめる場所。それがプレイパーク(冒険遊び場)です。この企画に学生7人が参加しました。

まず始めに山形村子ども会育成会主催のワークショップに参加させていただきました。このワークショップではツリーハウスを使ってどんなことがしたいのかを話し合い、多くの意見がでました。その意見を実現させようと、私たちは12月にクリスマス会を考えました。この企画は山形村子ども会育成会主催のチャレンジ広場の一部分として行うことができました。さらに、1月には松本大学学生主催のお餅つき大会を行いました。これらのイベントで印象深いのは一体感です。活動中には企画費用を抑えるために買い出しで何店も回ったり、土日学校に通い、打ち合わせや準備を夜遅くまで行いました。メンバー各々が役割を持ち、協力し合ってやったからこそ乗り越えることができました。また、山形村の人たちのサポートがあったからできたことです。

何かをやるために大切なことは、自分ができることを最大限つくし、人と協力することだと実感しました。当たり前なこと、よく言われることですが、できている人は少ないと思います。この活動は人に恵まれ、とてもいい経験でした。

まんが城下・松本 昔あそびの日



<初音づくり>

地域の方より

・幼児から大人までの大きなイベントでの活発かつ目配りのある活動ぶりに関心しました。今後のご活躍を期待します。

(奥 恵理香さん)

・数回の集まりに参加し、大変誠実で好感が持てました。今どきの青年にしては珍しく、他のメンバーも皆感心していました。

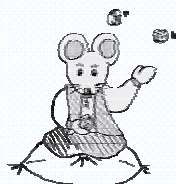
(小出 和子さん)

3月23日、松本市美術館で「まんが城下・松本」の一環として、達人と松本大学生がお手玉やかま、初音などの昔の遊びを子ども達に教えました。

私がこの活動に参画した理由は、いろいろな世代の人たちと交流を持つことができ、さらに昔遊びも会得することができると思ったからです。

活動は、達人から教わった昔遊びを現代の子供達に伝承するというものでした。私は昔遊びの中でも「お手玉」を選びました。それから毎日家でお手玉の練習をし、達人たちのお手玉教室に参加したり、実際に親子の希望者を募り、お手玉の作り方、遊び方を伝承したりとお手玉を通じて様々な活動を行いました。そして、お手玉の技をいくつか習得でき、たくさんの人とも交流を持つことができました。

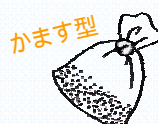
普段の生活では関わることのできない人達や企画に関わり、人との接し方、人の生き方、考え方、仕事などをほんの一部ですが自分に吸収する事ができたと思います。また、地域の人達と共に活動する楽しさ、素晴らしさを発見できたことが今回の活動を通しての一番の収穫でした!



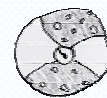
お手玉には、たくさんの形があります。絵で紹介します。



たわら型



かます型



ざぶとん型



まくら型

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年 小澤 悠維さん)

ファシリテーション実践講座

3月16日に、「合意形成のトレーニング - まちづくりはものがたり発想から - 」をテーマにファシリテーション実践講座が開催されました。考房『ゆめ』主催、CoCoサロンながの共催で、NPO法人まちの縁側育み隊代表理事で愛知産業大学大学院教授の延藤安弘先生を講師に、学生や地域の人が共に学び合いました。

9月に行われた入門講座の実践編で、「げんと〜く（幻燈とお話）」「ファシリテーショングラフィック演習」「無文字絵本からまちづくり物語を作ろう」「ポスターセッション」と進められ、物語づくりワークショップでは、一人ひとりが自分の思っていること、感じていることを自分の言葉で表現し、他の人の意見を聞きながら、みんなで合意形成を図り創り上げていく手法を学び合いました。遠くは京都、東京からの参加もあり、創造的な講座となりました。

4つのグループともそれぞれの発表があり、とっても楽しかったです。Cグループでは一つの模造紙を紙芝居にするという発想がすごいと感じ、とても面白かったです。

私たちAグループは寸劇を行いました。メンバーは、80歳の方、社協の方、松本大学OB、学生と様々でした。みなさんととても明るくアイデア豊富で、楽しく活動をする事ができました。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年 太田 優梨亜さん)



グループごとにまちづくり物語を発表しました。

作成したものがたりシート



まちの縁側づくり実践塾 田川地区編

人と人をつなぎ、活動をつなぎ、地域をつなぐ場としての新しい「まちの縁側」を創造してみようと、日本における住民参加のまちづくり、まち育ての専門家である延藤安弘先生を指南役に、地域づくり考房『ゆめ』主催の「まちの縁側づくり実践塾田川地区編」が2月26日と3月17日に行われました。

まずは「げんと〜く」で全国で進められたまちの縁側活動を学び、それをもとに地域のみなさんでフリートーク。隣近所の“つながりの一歩”としました。

2回目は「探検！発見！ほっとけん！」をテーマに、3地区に分かれてフィールドワーク。地域のおタカラ（良いところ、困ったところ）を発見。それをもとに、まとめました。各グループで発見してきたことを発表し、共有しました。

地域の方より

私たちの住んでいる田川地区は、松本駅西側にあたり、駅に近く風光明媚な町です。まだ残る小路のたた住まい、道祖神、河川敷、屋敷林等々あります。

延藤安弘先生の「まちの縁側づくり実践塾」に田川地区町会と松本大学の先生、学生、併せて25名が参加しました。まず、先生から「町中を歩けばいろんな宝物が見つかるはずだ。」と教えていただきました。「さあ、これから皆で出かけてみましょう。」

あらかじめ、その土地に住んでいる人で三通りのコースを作成しておき、三班に分かれて出発しました。私の選んだコースは、昔ながらの小路から奈良井川に抜ける通りで、私たちにとっては普段通りの慣れた道です。関心や感動もなくとらえておりました。最初に目にとまったのは全面的なまこ壁の土蔵作りの家です。どうして全面的なのか。また、いつ頃建てられたのか疑問がわいてきます。このように皆で興味を持ちながら探す楽しさは格別でした。限られた時間内で幾つかの宝物が発見でき、郷土がさらに好きになれそうです。

(松本市渚本村町会 浅輪 守弘さん)



地域の人々とフィールドワークに出かけ、自分の地域の宝物を発見するという企画に参加しました。みなさん真剣に新しい宝を探している姿を見て、自分の知り尽くした地域を更に発見しようとする地域の人々の姿にひかれました。私も、もっと地域の方々と触れ合って、スキルアップしていきたいと思いました。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科2年 北村 早希さん)

★ 楽しい縁側づくり活動紹介 ★

松本大学近くにある昭和初期の趣がある雑貨屋「みすず屋」さんでは、地域の方と学生が交流しながら、みんなが憩える縁側づくりを進めています。昨年12月10日には手打ちうどんパーティーを、また、3月17日には学生企画によるみすず屋寄席を開催しました。

みすず屋 うどんパーティー



私は10月から地域の方との交流をテーマにみすず屋さんで活動してきました。今回、もっと多くの地域の方と交流したいと思い、縁側づくりの会の皆さんと一緒に手打ちうどんパーティーを計画しました。

うどんパーティーでは麺作りから行いました。私は麺作りの経験は初めてで、粉を混ぜ、足で捏ねる作業は考えていたより重労働で大変だということを知りました。麺作りはとても楽しくいい経験になりました。地域の方と交流しながら作ったうどんは本当においしくて、食べに来られたお客さんにも好評でした。地域の方や学生さんがたくさん訪れてくれました。お客さんといろいろなお話をしたり、昔の遊び（お手玉、あやとり）などをしたりして、とても楽しい時間を過ごすことができました。

（松商短期大学部2年 後藤 萌美さん）

地域の方より

とても楽しく、おいしいうどんパーティーでした。学生さんにとって初めてのうどん作りで、最初は少々とまどっていたようでしたが、とても積極的で、楽しんでいるいろいろな作業を体験しているのが印象的でした。関わってくれた地域の人達と学生さんが楽しく話をしながら、地元でとれた小麦粉からおいしい煮込みうどんができあがり、手作りのよさが実感できた一日でした。

（お店で楽しい縁側づくりの会メンバー）

みすず屋寄席



私は3月17日に、大学近くの雑貨屋「みすず屋」さんで一人芝居をさせていただきました。「大学で自分の特技を活かしたい」と先輩に相談して、みすず屋さんで公演することになりました。緊張してセリフが途切れてしまう場面もありましたが、お客さんを喜ばせたいと思い、一生懸命演じました。演じているうちに、緊張感よりも演技の面白さとお客さんの反応に私は夢中になりました。お客さんが真剣になったり、笑ったり、表情が変わっていくのを見て改めて「芝居って楽しい。」と感じました。

今回、お客さん全員を泣かせることは出来なかったのですが、次に芝居をする時は、お客さん全員を泣かせるような芝居をしたいと思います。

（総合経営学部総合経営学科2年 桑江 智恵さん）

地域の方より

若い学生さんと交流することができて、たいへん楽しいし、うれしく、いつも感謝しています。一人芝居はすばらしかったし、落語の方も本職のようにすばらしく、とても良かったです。健康づくりのためにも学生さんや地域の皆さんと話したりすることは、とても良いことだと思っております。

（「うたと詩吟を行った」松本市新村 百瀬きよ江さん）



参加者の声

みすず屋寄席は私に幸せ～な“包まれ感”を下さいました。まず、みすず屋さんの建物とオーナーの古屋さんがあたたかい表情で出迎えて下さり、中では若者の一人芝居や落語に夢中のすし詰め状態の人たち。スタッフの方の笑顔がみすず屋さんをより一層可愛らしく演出していました。なかでも、アイドルは83歳の百瀬おばあちゃん！すばらしいつややかな声に感激し、何よりも関わる若者を「よかったよ」「すごいね」と包み込むやさしいお姿。おばあちゃんってこんなにあったかいのだと思いました。まだまだ若者のつもりでいる私は「若者の地域貢献」というと何をしたらいいんだろうか、と考え込んでしまいましたが、「おばあちゃんに包まれる若者おばあちゃんもいきいき」という本物の現場に出会えて最高に幸せでした。みすず屋さんでいただいたこの包まれ感を大事に、名古屋での自分の活動につなげていきたいです。

（まちの縁側育くみ隊 名畑 恵さん）

上高地線 ふるさと鉄道祭り

古い電車で新しい語らいの会主催の「上高地線ふるさと鉄道祭り」が3月23日に新村駅で開催され、地域から多くの方が訪れました。



“ハニフ号お別れ会”の1周年記念のイベントとして、また、多くの人に新村に来てもらい、新村の良さを知ってもらおうと企画しました。梓川太鼓十八会の太鼓演奏からスタートし、ミニSLの試乗、バス・電車の展示、喫茶コーナー、沿線の保育園児の絵、個人の陶芸、新村児童センターの絵ギャラリー、電鉄グッズの販売、鉄道模型の展示、運転手体験、車内放送体験など内容は盛りだくさん。中でも好評だった“Train & Walkスタンプラリー”は、「歩く」だけではなく、電車の良さも知ってもらえるように、「乗るコース」も加えたスタンプラリーです。下新～新村と範囲が広いのにも関わらず、親子や友達と一緒にスタンプを集めて回ってくれました。参加賞はマスコットの手作りバッジやキーホルダーをプレゼントしました。豚汁とぜんざいも大好評で、あっという間になくなりました。多くの方が線路沿いに座り、食べながらお話している光景は、線路が縁側になっているかのようでした。電車の中にも、電車の模型を楽しむ親子、コーヒーを飲みながら話をしている人が集まり、縁側が出来ていました。

短期間で準備を行い、不安要素もありましたが、何とか形にすることができ、多くの方の参加もあり、イベントは大成功。私たちが目指している“縁側となる憩いの場づくり”に少しずつ近づいてきました。また、今回のイベントは、料理、工作など、それぞれの特技や趣味を活かして活動しました。今後もメンバーの力を活かしながら活動し、縁側となる憩いの場を作り上げて行くことができればよいなと思いました。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科4年 隠居 綾さん)

新村 きてみてマップ

<マスコットのモハくん>



マップは新村、北新、下新の3駅に置いてあるよ!

活動のきっかけは、普段通っている新村の事が知りたいと思い始めました。新村周辺マップ作りは、新村地区のことを学べるよい機会でした。

マップを作っていく中で、沢山の修正やトラブルにあい、何度も諦めてしまおうかと考えました。しかし、活動を一緒にしてきた友達に助けられ、最後までやり遂げる事ができ、納期には遅れてしまいましたが完成することが出来ました。電車の会の皆さん、先生、そして私たちメンバー、それぞれの考え方の違いで何度もマップの直しが苦労はしましたが、それぞれの考えを取り入れ作っていく難しさと大変さや、1つのことに対して諦めないということ学びました。これから会社に勤めていく中でとても大事な多くのことを学べた活動でした。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科4年 西山 隼さん)

活動は、意外と知らない大学周辺のことを、マップを作ることで地域の方々との交流を図りながら新村の事を知っていこうというものでした。活動を始めたころの私たちのグループはまとまりがなく、活動がかなり遅れていました。コミュニケーションの重要性や、会議の前に準備しなければならないものなど、社会に出てから役に立つようなものをいくつも学び、最終的には、「古い電車で新しい語らいの会」のメンバーの方々の助けもあり、なんとか完成させることができました。このマップを、ふるさと鉄道祭りで配布しました。また、スタンプラリーのコースは新村駅だけでなく、北新駅や下新駅の各駅に100部ずつ置きました。多くの人に手にとって見ていただくことができました。

今後も、このマップが地域の方や観光客の手に渡り、地域振興に役立つことができたら嬉しく思います

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科4年 鈴木 一晃さん)

ハニフ 見学ツアー

3月8日、新村地区のものぐさ大学主催による「ハニフ見学ツアー」が観光に関心のある学生企画で行われました。新村駅にあった日本最古の電車「ハニフ号」が寄贈された、さいたま市の鉄道博物館見学に、地域の方と松本大学生併せて44名が参加しました。

参加者の声

- ・写真入りの資料がわかりやすく良かったです。
- ・天気も良く、公民館の役員の方々の楽しいお話、大学生のお話、バスの中は皆の笑顔がたえる事なく、またの旅行を楽しみにしております。



数ある活動の中からこのハニフ見学ツアーを選んだ理由は、観光に興味があり、観光資源や、観光ツアーの企画をやってみたくと思ったからです。下準備のポスターやチラシ・しおり作成では、慣れないパソコン操作をしたり、作成していくごとに日程や内容にずれが生じ苦労しました。

活動を終えてみて、自分たち素人が参加者の方々に説明をして、満足していただけるのかという不安もあり、途中で投げ出しそうになった部分もありました。しかし、自分達の作った「ポスターや、しおりが見やすかった」などの有り難い言葉をいただき、やり甲斐を感じました。初めてツアーを企画の段階から従事させていただいて、役員の方々に迷惑や負担をかけてしまったり、苦労や不安もありましたが、今思えばとても貴重な体験ができたと思えます。役員の方々ははじめ、関係者の皆さん大変お世話になりました。

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年
藤原 秀平さん、丸山 昭一さん)

作成したしおりを配布し、当日はバスの中でのガイドも頑張りました。

2008年

地域づくり学生チャレンジ奨励制度



松本大学地域づくり考房『ゆめ』は、本学学生の社会参加への第一歩となり、社会をより良くしていこうとするリーダーシップの芽生えとなる活動を支援します。楽しみながら自らも成長し、地域も活性化し、社会貢献につながる、学生による地域づくりの活動を募集し、選考の上助成を行います。



募

集

要

項



応募資格

自らの意志によって、社会をより良くしていこうというSpiritとPlanを持ち、それを着実に実行することができる松本大学の大学生個人あるいはグループによる活動を対象とします。

1. 松本大学生が中心となって行う活動
2. 団体の設立主旨や活動内容が特定の政治・宗教・営利の目的に偏っていないこと
3. 他からの助成を受けていないこと
4. アドバイザーとして専任の教員を依頼すること

助成金額

1グループ上限10万円

助成金額の加減については、エントリー用紙に記入された助成金の使用計画から適宜判断します。6月に審査を行い、6月末に助成金を支払います。詳細は考房『ゆめ』にあるチラシをご覧ください。

応募期間 2008年5月1日(木) ~ 5月30日(金)(必着)

応募方法 応募用紙のご請求及び申し込みは松本大学地域づくり考房『ゆめ』へ

※・*・° つぶやき *・° ※

今年のゆめカフェは「1年生と先輩が会話をする」ということに重点を置いて企画しました！プロジェクトの説明をしている人もいれば、学生生活の相談にのっている先輩もいて、「ゆめカフェ」を通じて学年を超えた交流ができました。これは大きな収穫だ！(^ ^)というか、考房にいる人はいい人ばっかだよ！ちょっとお菓子は食べすぎだったけど... (笑)今回は20名を超える参加者が考房『ゆめ』を訪れてくれて、ホントにうれしかったです！

参加した一年生の皆さん！春の「ゆめカフェ」はひとまず終わったけど、また時間のあるときはぜひ、考房に顔を出してくれよお(*^_^*)

(総合経営学部観光ホスピタリティ学科3年
平田 竜一)

インフォメーションへの問い合わせ“ゆめ通信”へのご意見・質問など、すべて下記へお願い致します。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

Tel: 0263-48-7213(直通) 0263-48-7200(代表)

Fax: 0263-48-7216

E-mail: community@matsu.ac.jp

URL: http://www.matsumoto-u.ac.jp/matsumoto_u/yume/